

平成25年 第2回

教育委員会定例会会議録

平成25年2月12日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2367号

平成25年第2回定例会

日 時 平成25年2月12日(火) 午前10時20分 開会

場 所 教育委員会室

「出席委員」	委 員 長	澤 孝一郎
	委員長職務代理者	小 島 洋 祐
	委 員	綱 川 智 久
	委 員	永 山 幸 江
	教 育 長	小 池 眞喜夫

「説明のため出席した事務局職員」	次 長	安 田 雅 俊
	庶 務 課 長	奥 野 佳 宏
	教育政策担当課長	山 本 睦 美
	学校施設計画担当課長	大久保 光 正
	学 務 課 長	佐 藤 雅 志
	生涯学習推進課長	白 井 隆 司
	国体推進担当課長	上 村 隆
	図書・文化財課長	沼 倉 賢 司
	指 導 室 長	平 田 英 司

「書 記」	庶務課庶務係長	柏 正 彦
	庶務課庶務係	遠 藤 由香里

「議題等」

日程第1 会議録の承認

第2357号 第9回定例会(平成24年9月11日)

日程第2 審議事項

議案第11号 教育管理職の任命について(秘密会)

日程第3 協議事項

平成24年度卒業式・修了式「お祝いの言葉」について

日程第4 教育長報告事項

- 1 港区スポーツセンターのプール休止について
- 2 生涯学習推進課の1月事業実績について
- 3 生涯学習推進課の各事業別利用状況について

- 4 国体推進担当の1月事業実績について
- 5 図書館・郷土資料館の1月行事实績について
- 6 図書館の1月分利用実績について
- 7 港区立麻布図書館の休館期間変更について

「開 会」

○澤委員長 おはようございます。ただいまから平成25年第2回港区教育委員会定例会を開会いたします。

(午前10時20分)

「会議録署名委員」

○澤委員長 本日の署名委員ですけれども、小島委員、よろしくお願いいたします。

第1 会議録の承認

第2357号 第9回定例会（平成24年9月11日）

○澤委員長 日程の第1、会議録の承認に入ります。

平成24年9月11日開催の第2357号、第9回定例会の会議録につきましては、承認ということによろしゅうございましょうか。

(異議なし)

○澤委員長 それでは、承認することに決定いたしました。

第2 審議事項

議案第11号 教育管理職の任命について（秘密会）

○澤委員長 続きまして、日程第2、審議事項に入ります。

議案第11号「教育管理職の任命について」。これは人事案件でありますので、個人情報が含まれております関係上、秘密会に入りたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なし)

○澤委員長 それでは、担当以外の方は、退室をお願いします。

なお、資料番号を付してあります議案かがみを除きまして後ほど資料は回収させていただきます。

(秘密会終了)

第3 協議事項

平成24年度卒業式・修了式「お祝いの言葉」について

○澤委員長 ありがとうございます。全員揃いましたので、日程第3、協議事項に入ります。

「平成24年度卒業式・修了式『お祝いの言葉』について」。指導室長、よろしくお願いいたします。

○指導室長 本日は、幼稚園、小学校、中学校を読み上げてご協議いただければと思いますので、早速幼稚園から。

平成24年度幼稚園修了式、お祝いの言葉

皆さん、幼稚園の修了おめでとうございます。

今、園長先生から、名前を呼ばれて、修了証書を受け取る皆さん一人一人の姿はとても立派でし

た。園長先生のお話も、お顔をしっかりと見て聞くことができました。今までの生活を通して、皆さんがしっかりとしたお兄さん、お姉さんに成長したことが伝わってきました。

皆さん、幼稚園で楽しい思い出がたくさんできたでしょうか。皆さんは、毎朝「おはようございます」と元気な挨拶をして幼稚園に通いました。片付けや当番のお仕事など、自分のことは自分でできるようになり、年下のお友だちのお世話をすることもできました。そして、お友だちと仲よく元気に遊んで、楽しい思い出をたくさんつくることができました。そのほかにも、力いっぱい走った運動会や、みんなでお弁当を持って出かけた遠足など、忘れられない思い出がたくさんあったことと思います。

これまで、みんなが力を合せて頑張ってきたので、幼稚園がますます明るく楽しい幼稚園になりました。

4月から皆さんは小学校1年生です。小学校では、国語や算数など色々な勉強をしたり、広い校庭では運動したりします。お昼にはおいしい給食を食べます。わくわくドキドキするような楽しいことが皆さんを待っています。新しいお友だちとたくさん遊んで、たくさんのことを学んで、元気いっぱいの1年生になってください。

さて、保護者の皆様、本日はお子様の幼稚園修了、誠におめでとうございます。ご家庭で愛情を注いで育ててこられたお子様の晴れの姿に、さぞ胸を熱くされたことと思います。

また、子どもたちの心豊かで健やかな成長は、ご家庭の愛情はもちろんのこと、地域の方々、関係の皆様のご理解とご支援、ご協力のおかげです。心から御礼申し上げます。

結びに、本日まで園児を教え導いてくださいました、園長先生を初め、教職員の皆様に深く感謝申し上げます、お祝いの言葉といたします。

平成25年3月21日、港区長、武井雅昭、港区教育委員会
以上でございます。

○澤委員長 ありがとうございます。幼稚園の修了式の「お祝いの言葉」を今、指導室長に読み上げてもらいましたが、何かお気づきの点がありましたら言っていただければと思います。

○小島委員 私は、非常によくできていて、基本的には、これで十分だと思います。気になったのが、「皆さん、〇〇幼稚園で楽しい思い出がたくさんできたでしょうか」と、これは疑問文ですよね。その次、3行目から「そして、お友だちと仲よく元気に遊んで、楽しい思い出をたくさんつくることができました」、これは肯定文。疑問文と肯定文があるのですが、どちらが本意なのでしょう。

○指導室長 流れの中でいきますと、「皆さん、幼稚園で楽しい思い出がたくさんできたでしょうか」と言うと、おそらく「はい」と言うと思うのです。

「皆さん、おはようございます」と言うと、みんな「おはようございます」。「おめでとうございます」と言うと「ありがとうございます」。「できたでしょうか」、「はい、できました」と言うと思います。投げかけの文章なので。

○小島委員 子どもたちの生き生きとしたところを見たいので、「はい」と答えるだろうから、最初は問いかけにして、後ろは「できました」と。

○網川委員 幼稚園の子どもにとって、自分は、今日は卒園式で来ていると思うのです。教育用語で「修了式」と言うかもしれませんが、子どもたちに語りかけるところで「幼稚園の修了おめでとうございます」という「修了」という言葉が、途中も入ってきますけれども、本当に子どもたちにとって分かりやすいのかどうかと思ひまして、どうでしょうか。

○指導室長 修了証書をもらうので、卒園式なのでしょうけれども、「修了式」と一般的には幼稚園の場合は言っている。修了証書が出るので、それにあわせて統一しているということなのです。

○小島委員 その場合、他区、他市町村も幼稚園は「卒園式」と言わないで「修了式」と言っているのですか。

○指導室長 幼稚園は「修了」です。

○小島委員 今、網川委員が質問したことは、私もずっと前に何度か聞いていて、「卒園の方がいいのでは、ピッタリいくのでは」と言ったのですが。

○澤委員長 でも、室長が言われているように、そういう話になると、看板からして「卒園式」としないとちょっと統一がとれないので、そこまでするのか、そういう大きな決断が必要になってきます。

○澤委員長 そういう名称にするということは、港区教育委員会全体として決めなければいけない。

○小島委員 それを問いかけている、網川委員は。

○網川委員 そういうことです。

○澤委員長 「修了式」と書いてあるのだから、子どもたちは修了式と思っているかもしれません。

○網川委員 卒業式もそうなのですから、多分看板には「卒業証書授与式」と書いてあるところもあるし、「卒業式」と書いてあるところもあると思うのです。子どもたちにとって「修了」という言葉が本当に適切なのか。幼稚園生ですよ、まして。もうちょっと考えたほうがいいのかと思います。看板は「修了式」のままでもいいと思うのですけれど、「ご卒園おめでとう」と言ってあげたほうが子どもにとっては良いのではありませんか。子どもの視線に立って考えてあげないと。大人の都合で「修了なんだって」と言い切ってもいいのでしょうかけれども。

○指導室長 小学校と中学校の学習指導要領には、卒業式と入学式が位置づいているのですけれども、幼稚園の教育要領には卒園式がないのです。だから、根拠が薄いのと、「卒業証書授与式」と言う場合もないわけではないのですけれども、厳密に言うと、特別活動に位置づいている小・中学校については「卒業式」と言うのが一般的なのです。その違いがありますので、だから「卒園式」という言葉が基本的にはないのです。

○小島委員 網川委員の言うことは、私もそのとおりだと思うので、前にも何回も言ったのですが。

○網川委員 慣用的に普通の生活の中で「卒園」と言いますよね。

○澤委員長 課題として残しましょう。そういう意見があったということは、ちゃんと議事録にも残りますから。

○網川委員 これは文科省が世間とずれているのかもしれないし、特別な理由があるならいいですけれども。以上です。

○澤委員長 確かに一般的には卒園式の方が分かりやすいですね。

では、この件は大きな課題ということで。幼稚園修了式の「お祝いの言葉」は、よろしゅうございますか、

それでは、指導室長、次をよろしくお願いします。

○指導室長 次は小学校です。

平成24年度小学校卒業式、お祝いの言葉

卒業生の皆さん、本日ここに小学校6年間の全課程を修了され、晴れて卒業のときを迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。

ただいま、皆さんは校長先生から、一人一人卒業証書を受け取りました。皆さんの凛々しい表情から、卒業の日を迎えた喜びと、これからの中学校生活に対する大きな期待を感じました。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。大きく成長されたお子様の姿をごらんになり喜びもひとしおのことと思います。

ここで、新たな生活に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会より、一言お祝いの言葉を贈りたいと思います。

昨年9月、ロンドンパラリンピックが開催され、車椅子テニス男子シングルスにおいては、国枝慎吾選手が前回の北京オリンピックに続いて優勝を成し遂げました。数々の困難を乗り越え、パラリンピック2連覇を果たしたことは、私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。国枝選手は足の速さが自慢の野球少年でした。小学校3年生のときに神経を冒すがんにかかってしまいました。手術を受けて一命はとりとめたものの、下半身が麻痺し、車椅子生活を余儀なくされました。運動好きな国枝少年にとってはとてもつらいことで、将来の夢や希望を見失いました。国枝少年のお母さんは何とか息子に元気を取り戻してもらいたいと思い、息子に合った運動クラブを探し回り、パラリンピック選手が所属しているテニスクラブを見つけ出し、ここに国枝少年を所属させました。

はじめ国枝少年は車椅子テニスに魅力を見出せずにはいました。しかし、パラリンピック選手から助言を得たことや、持ち前の運動能力の高さから徐々に頭角をあらわし、高校1年生のときに海外遠征の選手に選ばれました。そして、遠征先のオランダにおいて、人生の転機となる大きな衝撃を受けました。それは、日本と世界のレベルの差に愕然とするとともに、海外には車椅子テニスで生計を立てて自立して生活している選手が多くいることを知ったからです。これを契機に「自分もパラリンピックに出たい」との目標を強く抱くようになりました。

一たん目標が定まってからは、国枝選手はひたすら努力を積み重ねました。優れたコーチにめぐり合えたことも幸運でした。1日5時間以上に及ぶ激しいトレーニングに取り組み、車椅子テニスに必要な強い筋力を身につけるとともに、高い技能を習得し、精神面での強化も図りました。そして2006年には念願の世界ランク1位となり、2007年には史上初となる車椅子テニス男子シングルの年間グランドスラムを達成し、2008年北京オリンピックにおいては悲願の優勝を果たしたのです。

さて、卒業生の皆さんは、将来自分が就きたい職業や、あるいはこれからの世界の発展のために

自己の力を発揮したいなど、色々な夢や希望を抱いていることでしょう。国枝選手は私たちに「目標を持って、納得するまでやり切ることが大切である」というメッセージを発信してくれています。皆さんも夢を夢として終わらせることなく、国枝選手のように、強い意思を持って諦めることなく、目標を達成するために今自分にできる努力を続けてください。つらいときや悩むときもあるでしょうが、きっと実現できる日が来ると信じて、これからの道を進んでいってほしいと思います。

結びになりましたが、卒業生を深い愛情を持って教え導いてくださった校長先生を初め教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご協力とご理解を賜りましたPTA並びに地域の皆様に心より感謝申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

平成25年3月25日、港区長、武井雅昭、港区教育委員会

○澤委員長 ありがとうございます。小学校卒業式「お祝いの言葉」、何かお気づきの点等ございましたらお願いいたします。

文章の長さは、例年並みですか。

○指導室長 例年並みで、変えてはおりません。

○綱川委員 何か所かあるのですけれども、2段落目の「昨年9月」というところがあります。ここで「優勝を成し遂げました」とありますが、小学生ですから「金メダルを獲得しました」とか、そちらの方が分かりやすいかなと思いました。

その前の「男子シングルスにおいては」と書いてありますけれども、「は」は要らなくて「おいて」としたほうがいいのかと思います。

それと、その次の段落の「国枝選手は足の速さが自慢の野球少年でしたが」と「が」が二つ続くので、後ろは「少年でした」で1回切ってしまうと続けたほうがいいのかと思いました。

あとその段のところの「パラリンピック選手が所属しているテニスクラブを見つけ出し」と書いてあるのですけれども、「見つけ」ぐらいの方がいいかなと。「ここに国枝少年を所属させました」、「見つけ所属させました」というのがいいかなと思いました。

あとその次の段のところの4行目「日本と世界のレベルの差に愕然とするとともに」というところ、「日本と」というのが必要かなと。「世界とのレベル差を感じた」というふうにしていいのかな。その最後のところの「これを契機に『自分はパラリンピックに出たい』との目標を強く抱くようになりまして」なのか、パラリンピックに出たいのか、世界的選手になりたいのか、生計を立てたいのか、その辺がよくわからないので、僕はどれかにしたほうがいいのかと思いました。

あと次の段の「年間グランドスラム」と小学生に言ってわかるでしょうか。大きい大会を全て勝ちましたとか、四大大会とか、そのぐらいの方がいいのかなと思いました。

あと次の段の「あるいはこれからの世界の発展のために自己の力を発揮したい」、「世界の発展」という言葉が適切か検討していただきたいなと思いました。以上です。

○澤委員長 指導室長、何かありますか。

○指導室長 先程ご指摘の中で「国枝選手は足の速さが自慢の野球少年でした」、「ところが」と言

ったほうがいいですね。「ところが、小学校3年生のときに」ということでよろしいでしょう。

あと「これを契機に『自分もパラリンピックに出たい』との目標を強く抱くようになりました」、これはどこか引用した文章があります。

あと、細かい部分については、グランドスラムでとか、金メダルですとか、それはもう一回整理して、小学生が分かりやすいようにしていきたいと思います。

○**教育長** 今、気がついたのですけれども、先程の「自分が就きたい職業」、後ろの方です、「世界の発展のために」。「自分が就きたい職業」と「自分の力を発揮したい」というのを「や」で並列につないでいて、受ける言葉が「色々な夢や希望を抱いていることでしょう」というのですけれども、つながりがおかしくないですか。「自分が就きたい職業や、あるいはこれからの世界の発展のために自己の力を発揮したいなど、色々な夢や希望を抱いていることでしょう」、上のものは職業で、次のは「発揮したい」なので、座りがと思います。どういうふうにすればいいのか。

○**小島委員** 夢と希望がそれぞれかかっているのかな。

○**綱川委員** 「でも、夢とか職業のことや」。

○**教育長** 「こと」というのは両方に入れると座りがいい。「就きたい職業のことや、力を発揮したいことなど」。

○**澤委員長** あるいは「や」をとってしまってもいい。「自分が就きたい職業、あるいはこれからの世界の発展のために自己の力を発揮したいなど」。

指導室長、その辺ちょっと整理をお願いします。

○**指導室長** 分かりました、整理します。

○**澤委員長** あまり長々と話をして、集中力を持って、あるいは興味を持って聞いてくれるかというのも気になる場所ですね。

○**教育長** ちょっと長い感じがしますね。

○**綱川委員** 去年と変わらない長さだということですので、そのままにしたいのですが、小学生にとっては長いかなとも思ってしまうのですけれども、これで何分ぐらいなのか。

○**指導室長** ゆっくり読んで、10分ぐらいあると思います。

○**澤委員長** 私が思ったのは、1段落目、2段落目、3段落目が、国枝選手の色々な、オランダへ行ったとか何とかです。この辺のところはもうちょっと簡潔にしたほうがいいのかと感じました。それで目標が定まってからという、このあたりを強調するような、そういう流れの方が良いではありませんか。

○**指導室長** 少し短くします。

○**綱川委員** 去年も確かお願いしたのですけれども、校長先生と内容がダブる可能性がある。ですので、ここで決まったら前もって校長先生になるべく早くお渡しいただいておいたほうが良いと思います。去年は送っていただいたのですよね。

○**指導室長** まだ文章は見せていませんけれども、この人をテーマにするよということは前回の校長会で話しています。

○澤委員長 特に小学校6年間の大きく成長する最後の節目です。私もこれを読ませていただいて、国枝選手、名前はよく知っていましたが、こういうバックグラウンドがあるということはずごく感銘を受けましたので、よろしくお願ひいたします。

○指導室長 では、中学校です。

平成24年度中学校卒業式、お祝いの言葉

卒業生の皆さん、本日ここに義務教育9年間の全課程を修了され、晴れて卒業のときを迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

ただいま、皆さんは校長先生から、中学校の3年間で修了した証である卒業証書を受け取りました。皆さんの清々しい表情からは、卒業の日を迎えられた喜びと、これからの人生に対する大きな期待が満ちあふれており、堂々とした姿は頼もしいかぎりです。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿をごらんになり、喜びもひとしおのことと思います。

ここで、新たな進路に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会より、一言はなむけの言葉を贈りたいと思います。

昨年、2012年のノーベル生理学・医学賞を、京都大学山中伸弥教授が受賞されました。この知らせは長期にわたる景気低迷などで閉塞感が漂う日本において、沈みがちな私たち一人一人の心に大変明るい希望や元気を吹き込んでくれました。

山中教授が研究開発した「iPS細胞」は、皮膚などの一般的な細胞に特定の四つの遺伝子を組み入れることで細胞を初期化し、あらゆる細胞に成長できる性質をつくり出したものです。

ノーベル賞の受賞は、研究成果を発表してから何十年もたって、やっとその評価が定まることが多いのですが、山中教授の研究成果は、わずか7年足らずで世界中の研究者がその偉業を認め、異例の早さでノーベル賞の栄誉に至りました。このことから山中教授の研究が革命的であり、また、医学の発展への貢献が大きいことが伺われますが、山中教授の研究者としての道りは決して平坦ではなかったようです。将来、皆さんが社会人として活躍することを願ひ、山中教授のお話から二つのエピソードを紹介します。

一つ目は、「自分の適正をしっかりと見極め、目標に向けて粘り強く取り組むこと」の大切さです。山中教授は最初、患者さんの役に立つことを目標にして整形外科の臨床医を目指しましたが、ほかの医者が20分で終わる手術に2時間もかかるなど、強い挫折感を味わいました。しかし、担当した重傷のリウマチの女性患者の変形した関節の姿にショックを受け、「苦しんでいる人を救いたい」との一心から、研究職としての再起を誓い、海外に留学し、研究者としての道に進みました。目標を見失わず、熱意を持って粘り強く取り組むことの大切さが感じ取れます。

二つ目は、「他者への感謝の気持ちを持ち、チームワークを大切にすること」です。山中教授は、講演会の冒頭でiPS細胞の研究に貢献した人たちの話をされます。そして、顔写真を示しながら、これまでに研究にかかわった学生や研究員たちを紹介します。これは、研究とは一人の人間の力の成果ではなく、研究を支える多くの人々との共同の成果であることを強調したいからです。

国際競争が激しい i P S 細胞の研究開発において、今後も日本が高い研究レベルを維持し、一層世界をリードするためには、山中教授のように、他者への感謝の気持ちを常に持ち続け、チームワークを大切にすることが何よりも大切です。

どうか皆さんも、港区立中学校で学んだ力を基礎にして、山中教授のように自分の適正を見極め、目標を見失わず、熱意を持って粘り強く取り組むとともに、感謝の気持ちを持って周りの人と接し、広い世界の中でたくましく未来を切り開いてください。

結びになりましたが、卒業生を今日まで愛情を持ってご指導いただきました校長先生はじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご支援とご協力を賜りました P T A 並びに地域の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

平成 2 5 年 3 月 1 9 日、港区長 武井雅昭、港区教育委員会
以上です。

○澤委員長 ありがとうございます。中学校卒業式「お祝いの言葉」、今、読み上げてもらいましたがけれども、何かございますでしょうか。

○綱川委員 それでは、口火を切ります。5 段目ぐらいの「山中教授が研究開発した」というところの次の行の「性質をつくり出したものです」という「性質」は、性質をつくったのではなくて、性質を持つ細胞をつくったのかなというふうに思いました。

それと、その次の段の「山中教授の研究が革命的であり」と書いてあるのですけれども、「革命」ではなくて「革新的」が適切かなと思いました。

あとその次の段の「重症のリウマチの患者で」、別に「女性」と入れないほうがいいのか。「関節の姿にショックを受けた」、「姿」ではなくて、「関節」でいいのかとちょっと疑問が残りました。

○指導室長 「関節に」と言っていていいですね。「患者の変形した関節にショックを受け」。また、これは山中教授の原文の方に「革命的」としてあったのです。

○綱川委員 「革命的」なのだ。そういう表現をしているのですか。

○澤委員長 非常にユニークな研究成果をあげられて、確かに革新的だと思いました。

こんな短期間で評価されるというのは非常にありがたい。日本人にとってはすごくうれしいことです。

○綱川委員 「7 年で」と書いてあると、お若くて評価されたというのがどこかにあるといいかなと思います。希望を、若くてもというようなところがどこかに 1 カ所入っていると子どもたちにとっていいのかと思いますけれども、例えば、「京都大学の山中伸弥教授が何歳で受賞されました」とか。

○指導室長 「何歳の若さで」という、「5 0 歳の若さで」という。

○綱川委員 ここが終わりではなくて、これからまだ続けるというような、ノーベル賞というと過去にやったことでもらっているという感じがするのだけれどもというようなことを加えていただくと希望が持てると思います。

○永山委員 小学校、中学校にはPTAの方への感謝の気持ちを書いて、幼稚園には書いていないのですが、幼稚園の方は小さい子どもを抱えて本当にすごくPTA活動を一生懸命やっていたらっしゃるので、最後の方に「PTA、地域の方々」と入れてもらえますか。

○澤委員長 指導室長、その辺よろしくお願いします。

それでは、よろしゅうございますか。

4 教育長報告事項

1 港区スポーツセンタープールの休止について

○澤委員長 次に、日程の第4、教育長報告事項に入ります。

まず初めに、「港区スポーツセンタープールの休止について」。生涯学習推進課長、説明をお願いします。

○生涯学習推進課長 「港区スポーツセンタープールの休止について」ご報告をいたします。資料ナンバーの2をご覧ください。

スポーツセンターのプールの衛生管理、安全確保のため、水を交換し、清掃、機械設備保守点検を行うためプールを中止いたします。

休止の期間としましては、平成25年3月4日の月曜日から3月14日の木曜日までの11日間となります。

理由としましては、プールの水の入れかえ、清掃、プールの補修、機械保守点検のため休止をいたします。

今回、プールのメーカーによるプール内の補修工事を予定しております。工事の乾燥、養生などに期間が3日間程度多く日数がかかっており、全11日間の休止とさせていただいているところでございます。

利用者への周知方法については、「広報みなと」、「ひろば」、「Kissポート」誌への掲載のほか、ホームページの掲載を行います。また、スポーツセンター館内でのポスター掲示や、館内放送などを使って利用者に休止期間を周知してまいります。以上です。

○澤委員長 港区スポーツセンターのプール休止について、例年より長めの11日、プールの補修等もあるのでという説明をもらいましたけれども、何かございますでしょうか。

これは補修も含めると予算的にはどのぐらいの経費がかかるのですか。

○生涯学習推進課長 指定管理者の維持管理の経費の中で今回行うものでございます。教育委員会の方から別立てで修理費を出すということはありません。

(異議なし)

○澤委員長 分かりました。

2 生涯学習推進課の1月事業実績について

○澤委員長 次に、「生涯学習推進課の1月事業実績について」。生涯学習推進課長、よろしくお願

いします。

○生涯学習推進課長 それでは、「生涯学習推進課の1月事業実績について」ご報告いたします。資料ナンバーの3をご覧ください。実績となります。

今回、タグラグビー教室が3回など教室を開催してございます。青山小学校が16人、東町小学校が14人、港南小学校が20人の参加者となっております。

それから4行目になります。4行目、11日と18日でございますが、喜多方市の物産市を開催しております。こちらの方は、参加者数につきましては、申し訳ありませんが、会場のレイアウト上、把握するのが困難ですので計測をしていない状況でございます。以上です。

○澤委員長 ありがとうございます。生涯学習推進課の1月事業実績について報告をもらいましたけれども、何かございますでしょうか。

この本村小学校の健康体操教室というのは、前からありましたか。

○生涯学習推進課長 本村小学校健康体操（フィットネス）教室でございますが、これは以前から高松中学校バドミントン教室とともに個人公開事業として続けてきたものでございます。

○澤委員長 よろしゅうございますか。

3 生涯学習推進課の各事業別利用状況について

○澤委員長 それでは、次に、「生涯学習推進課の各事業別利用状況について」。生涯学習推進課長、よろしくお願いいたします。

○生涯学習推進課長 それでは、「生涯学習推進課の各事業別利用状況について」です。資料ナンバーの4をご覧ください。各施設事業の1月の利用状況になっております。また、資料の一番最後になります、学校の屋内プール一般開放、遊び場開放、スポーカル六本木の集計が1月遅れで12月の報告とさせていただきます。

今回特に目立ったところを報告させていただきます。

4枚目をご覧ください。4枚目、スポーツセンターの利用集計、それから裏面ですが、運動場の利用集計になっております。これは例年共通する動きなのですが、寒くなってきますと利用者が減ってしまう傾向があります。特に裏面の運動場利用集計ですが、天候に左右されることが多くございます。今年は1月に降雪があり、テニスコートなど一部施設でコートの位置によってはしばらく使えない期間がございました。こうしたところで雪の対策なども指定管理者と対策を練っているところでございます。これから降雪の対応というところで、少しでも早く運動場が復旧できるように取り組んでいきたいと考えているところでございます。以上です。

○澤委員長 ありがとうございます。何かお気づきの点等ございましたら、お願いいたします。スポーツセンターの利用集計表の右下の数値は、それぞれが先月までの集計ということですか。

○生涯学習推進課長 累計でございます。

○澤委員長 累計、合計。

○生涯学習推進課長 合計でございます。

○澤委員長 ほかに何かございますでしょうか。よろしゅうございますか。

4 国体推進担当の1月事業実績について

○澤委員長 次に、「国体推進担当の1月事業実績について」。国体推進担当課長、お願いします。

○国体推進担当課長 それでは、「国体推進担当の1月事業実績について」ご報告をいたします。資料はナンバー5になります。

教育委員会では、本庁を初め5地区で国体&オリンピック・パラリンピック東京招致の巡回展を実施してきました。その最後となったのが高輪地区です。5日から20日にかけて高輪地区総合支所内で展示を行い、250人の観覧者となっております。

次に、11日に平成25年新年あいさつ交歓会を行いました。大会の際には、港区なぎなた連盟による、なぎなた演技競技の披露がされ、会場内のブースでは「ゆりーと」の出演とともに武具の展示やモニターによる国体&オリンピック・パラリンピック東京招致のPRを行いました。

また、14日の「成人の日記念のつどい」の方では、会場内のブースで「ゆりーと」の出演と啓発グッズの配布を実施しております。

そして、オリンピック・パラリンピック招致委員会の協力によります学校へのアスリート派遣、こちらは1月15日の麻布小を皮切りにスタートしました。17日には白金小学校、神応小学校、青南小学校、21日には筈小学校、29日には芝浦小学校にそれぞれ、オリンピックやパラリンピックに出場した選手が子どもたちに話をしに来てくれました。来てくれた選手ですけれども、オリンピックに出場したバレーボールの大山加奈さん、櫻井由香さん、また、柔道の田辺陽子さん、また、パラリンピックに出場した陸上競技の佐藤真海さん、シッティングバレーボールの齋藤洋子さんです。

話の内容ですけれども、「オリンピックやパラリンピックの出場は、自分だけの力ではなく、周りの支えがあって成し遂げられたことであること。また、2020年にオリンピック・パラリンピックが東京で開催されるのであれば、トップアスリートを間近で見られるだけではなくて、今の子どもたちがアスリートとして参加することもできますし、また、ボランティアとして支えるスポーツとしても大会に参加することができるかもしれないので、ぜひ東京で開催したいです。みんなも応援してほしい」ということで呼びかけておりました。

最後になりますが、19日には、東京タワーとスカイツリーの地元商店街による「二大タワー周辺商店街めぐり」のオープニングセレモニー。また、20日には高陵地区委員会の新年餅つき大会に「ゆりーと」が出演して国体やオリンピック・パラリンピックのPRを行っております。以上です。

○澤委員長 ありがとうございます。国体推進担当の1月事業実績について報告をもらいましたけれども、何かご質問等ございますでしょうか。

○小島委員 小学校にアスリートが行って、子どもたちと色々なお話をしたと思うのですが、子どもたちは、尊敬の眼で見ていたとか、楽しいとか、雰囲気としてはどんな雰囲気なのですか。

○**国体推進担当課長** 私も全部の学校に行けなかったのですけれども、麻布小学校、全小学校そうだと思うのですけれども、体育館に全生徒を集めまして選手を囲むような形でお話を聞きまして、特に麻布小学校には陸上競技の佐藤真海選手がいらしたのですけれども、この選手は本も書いたりしてまして、今年のロンドンオリンピックにも出場した選手ですけれども、大分事前に学校で盛り上がりまして、当日子どもたちも大変熱心に聞いていましたし、最後に6年生だけ教室の方に来て質問コーナーを設けてほしいという要望を受けてもらう形で、6年生の教室に行って実際に義足をさわってもらったりとか、質問コーナーを特別にやってもらったりして盛り上がっておりました。

大山加奈選手などは、みんなでアーチをつくってハイタッチをしたりとか、あと田辺陽子さん、柔道の選手は、学校の先生を相手に柔道をやってくださいまして、先生も子どもたちも喜んでいと聞いております。

○**小島委員** 田辺選手は、女子柔道の選手でその風貌から狼と言われた選手ですね。

○**国体推進担当課長** ソウルで銅、アトランタで銀を獲った選手です。

○**綱川委員** 20日の高陵地区の餅つき大会、私も行っていたのですけれども、港区なぎなた連盟の吉田さんともう一人、お二人見えて、なぎなたの演舞を子どもたちの前でやっていたので、活動実績として書いておいたほうが良いと思います。なぎなたを国体でやりますよということもちゃんとPRしてくださいましたので。

○**国体推進担当課長** 説明に入れようかと思ったのですけれども、高陵地区は「ゆり一と」が出ただけではなくて、なぎなたの演舞を披露しています。実績の事業名としては、着ぐるみの貸し出しを高陵中で行ったということで間違いではないので、この事業名でいいのかなと思います。その中で、なぎなたの披露があったという説明を本委員会の議事録に残していただければいいのではないかと思います。

○**教育長** あいさつ交歓会の際にも演舞がありましたから、同じ扱いで、事業名になぎなた演舞を出さなくてもいいのではないのでしょうか。

○**澤委員長** そうでしたね、ありましたね。

○**澤委員長** では、よろしゅうございますか。

5 図書館・郷土資料館の1月事業実績について

○**澤委員長** 次に、「図書館・郷土資料館の1月行事実績について」。図書・文化財課長、よろしくをお願いします。

○**図書・文化財課長** それでは、「図書館・郷土資料館の1月事業実績について」ご報告させていただきます。資料ナンバー6でございます。

まず、図書館の方でございます。資料の方から幾つかピックアップしてご説明させていただきます。

資料の2ページでございます。映画会の方ですけれども、14日にみなと図書館で「おやこシアター&ミュージックコンサート」という形で映画会を実施させていただいております。こちらの方

は、幼児と保護者の方を対象にして、親子で参加をしていただく映画という形で実施をいたしました。映画は幼児向けの映画を何本か上映したのですけれども、上映の前にコンサートというような形で、アコーディオン奏者の方と、それからコントラバス奏者の方お二人に、子どもたちになじみの深いスタジオジブリの曲などを事前に生演奏していただく企画をいたしました。

それから資料の3ページでございます。その他のところにあります、12日に赤坂図書館で、こちらやはり音楽の関係なのですけれども、「二胡の調べ」ということで、こちらは二胡という中国の楽器ですけれども、こちらの方の演奏会という形で実施をいたしました。実際の演奏のほか楽器のルーツですとか、音を出す仕組みなどについても演奏者の方から色々ご講義をいただく形で進めさせていただいております。

それから同じその他のところで30日、こちらの方はみなと図書館ですけれども、「読み聞かせボランティア養成講座(第1回)」というのを実施してございます。こちらは読み聞かせのボランティアということで、今、図書館の方で子どもたちに読み聞かせをやっているようなボランティアさんの養成ということで取り組んでおりますけれども、今回につきましては、今年度既に実施しておりますボランティアの養成講座の初級、中級編の講座を受けていただいた区民の方、あるいは読み聞かせ活動の経験のある区民の方を対象にしまして、今回レベルアップ講座という形で実施をしているところでございます。

それから次に、4ページでございます。郷土資料館になります。郷土資料館につきましては、1月につきましては、区内の小学校3年生の社会科見学が多数ございました。22日の神応小学校に始まりまして31日の芝浦小学校まで、各校から社会科見学ということで資料館の方に足を運んでいただいております。

それから下の方の欄外になりますけれども、平成24年度特別展「江戸大名菩提寺」を実施いたしました。10月27日から12月16日までという形で行いましたけれども、この期間中の来館者が2,915人という形で出ております。例年大体3,000名をちょっと超えるぐらいですので、若干少ないところがあるのですけれども、まずまずの来館者数かなというふうに思っております。引き続き展示については、皆さん方のご興味のある内容を検討して展示させていきたいと考えてございます。以上です。

○澤委員長 ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして、ご質問等はございますでしょうか。

これは3ページ目のその他の中の「三田としょかん寄席」というのは、62名と随分盛況だったようなのですけれども、これは実際に噺家が来て話をされるのですか。

○図書・文化財課長 三田の方では、年に数回こういった形で「としょかん寄席」というのをやっております、実際に噺家の方に来ていただいてやっております。

○澤委員長 大分認知もされているので結構人が来ていただいているということですか。

それと郷土資料館へ22日に港南小学校3年生社会科見学、30日も港南小学校3年生社会科見学というのは、港南小学校が、人数が多いので2回に分けて来ているという、そういうことですか。

○**図書・文化財課長** 学校のご希望等によりまして、2回に分けて受け入れました。

○**澤委員長** 受け入れ側としては、芝浦小学校の児童100名を受け入れていますが、人数としては結構大丈夫なのですか。

○**図書・文化財課長** 特に芝浦小学校は、100名を超える生徒さんが来館いただいたということで、会場は広さの問題もありまして、幾つかの班に分かれていただいて、ほかの展示室と、さわれる展示室に分けてご覧いただくとか、あるいは確か芝浦小学校の場合は、さらに細かく班も分けて、図書館の方も見ていただく時間をつくったと聞いております。

○**澤委員長** よろしゅうございますか。

6 図書館の1月分利用実績について

○**澤委員長** 次に、「図書館の1月分利用実績について」。図書・文化財課長、お願いします。

○**図書・文化財課長** それでは、「図書館の1月分利用実績について」のご報告でございます。資料ナンバー7です。

資料の方に例月のとおり貸出数、予約数、図書館収蔵資料数等々の数字を記載させていただいております。全体の傾向でございますけれども昨年の同時期に比べまして今回特徴的なのは、各館とも共通の傾向なのですけれども、CDの貸出が若干昨年に比べて各館とも下がっているという状況がございました。このあたりは原因の方を確認していかなければいけないと思っておりますけれども、いずれにしても今後も図書も含めてですけれども、資料の選定等については、利用者の方が関心、興味のある内容について把握に努めながら検討していきたいというふうに考えてございます。以上です。

○**澤委員長** ありがとうございます。図書館の1月分利用実績について説明をもらいました。その中で昨年に比べて、CDの貸出数が減っているということですが、それが一時的なものなのか、何か本質的な理由があるのか、その辺は今後検討していただくということですが、何かご質問等ございますでしょうか。

○**小島委員** 図書館では利用についての希望やアンケートはどのようににやっているのでしょうか。

○**図書・文化財課長** 図書館でのこういった資料についてのご希望につきましては、リクエストカードを備えておりまして、それに書き込んでいただくような形でございます。実際にリクエストカードをいただいたもので図書館で所蔵していない資料については、1件1件の状況を見ながら新たに購入するのか、あるいは他の自治体からお借りするのか、そういったことを検討することになっております。

○**澤委員長** ほかに何かございますでしょうか。

本日予定しておりました案件は全て終了いたしましたけれども、庶務課長から発言を求められております。庶務課長、よろしく申し上げます。

○**庶務課長** 申し訳ございませんが、教育長報告事項としまして「港区立麻布図書館の休館期間変更について」を本日の日程に追加していただくよう申し上げます。

○澤委員長 日程の追加についてお諮りします。

お手元に資料ナンバー8ということで配布いたしました書面にありますように、本日の日程にこの件を1件追加したいと思えますけれども、よろしゅうございましょうか。

(異議なし)

○澤委員長 ありがとうございます。それでは、教育長報告事項を1件追加いたします。

7 港区立麻布図書館の休館期間変更について

○澤委員長 それでは、「港区立麻布図書館の休館期間変更について」。図書・文化財課長、よろしくお願ひします。

○図書・文化財課長 それでは、本日追加案件ということで「港区立麻布図書館の休館期間変更について」をご提出させていただきました。説明させていただきます。

麻布図書館につきましては、現在改築中でありまして、来年、平成26年7月の開設を目途に準備を進めているところでございます。麻布図書館の休館期間につきましては、平成21年3月に、今は取り壊してしまった施設ですけれども、施設の老朽化とかバリアフリーへの対応ができていない等々の理由によりまして休館をしてございます。その休館した際に、休館期間ということで平成25年3月31日までということで休館期間の告示をしてございますけれども、今、改築工事の方が進んでいく中で、改築工事の竣工時期というのが来年平成26年5月という形で進んでおります。ということ踏まえまして、休館期間につきまして平成25年3月31日までとなっていたものを、平成26年6月30日までという形で休館期間の変更をして告示をさせていただきたいというふうを考えてございます。以上です。

○澤委員長 ありがとうございます。麻布図書館の休館期間変更につきまして説明をもらいましたけれども、何かありますでしょうか。

○小島委員 今の説明どおりで特にはないのですが、ただ区民の皆様に対して休館期間を変更するに当たっては、1年3カ月間開館が遅れた説明をしなくてもいいのですか。ただ、単に期間変更の告示をするだけでいいのでしょうか。

○澤委員長 今の小島委員の話のように、当初平成25年3月31日までと予定していたものが、1年3カ月、かなり大幅に遅れるということですが、この周知というのはどういうふうを考えているのですか。

○図書・文化財課長 この休館期間の周知でございまして、今回告示でということで考えてございます。これまで特に地域の方につきましては、工事の説明会ですとか、基本計画が策定された時点ですとか、折々で説明をする機会を設けてございます。ただ、区全体での周知という形では告示で、平成25年3月までの休館にしますと言ったときのお知らせをしたということになってしまっていると思えますので、今後平成26年6月に向けての開設ということで調整していく中で、改めて図書館の開設時期については、広くお知らせする機会を設けてまいりたいというふうを考えてございます。

○澤委員長 そういう意味では周知はきちっとやっていただかなければいけないのですが、1年以上遅れたということの理由は何なのですか。

○図書・文化財課長 用地買収の件です。幾つかの段階がございまして、平成21年3月の計画の時点では隣地の買収の状況ですとか、そういったものがその後に調整を進めてきたところでもあるかと思います。

そのあと基本構想・基本計画を策定したのですが、その後に基本計画の一部見直しがございました。具体的には建物の上層階で災害対策用の職員住宅を建設する予定でございましたけれども、それは別の区の施設の方に住宅を確保するというので、こちらからは住宅がなくなったり、地下を取りやめたり、設計の修正等がありました。そうした幾つかの理由が重なって遅れたということでございます。

○教育長 今の説明を聞くと、平成25年3月31日というのを、はっきり決めないでいったような感じと受け取れるので、どういう表現がいいかは別にして、きちっとおくれたということがわかるような書き方をしないとまずいと思います。

○小島委員 これを見た人が何なのだろうという感じは受けるので、この辺をうまく表現していただきたいと思います。

○澤委員長 区民の皆さんがなぜ遅れたのかということが分かるように、我々には説明責任というものもあるので、図書・文化財課長よろしくをお願いします。

それでは、ほかによろしゅうございましょうか。

「閉 会」

○澤委員長 それでは、閉会といたします。次回は2月26日火曜日、午前10時からの予定です。よろしくお願いたします。どうもお疲れさまでした。

(午前11時50分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 澤 孝一郎

港区教育委員会委員 小 島 洋 祐